

アリ・バクティアリ研究員（イラン）



はじめまして。私はイランから来ましたアリ・バクティアリと申します。イランでは現在、国家防災機関で上級専門家として働いています。それまでに災害リスク管理に関する国際および国家プロジェクトに従事した経験もあります。また 2010 年からはイラン科学大学で講師も務めておりました。国家防災機関での主な業務は、災害リスク管理に関連した国際的な協力事業で、例えば、災害管理に関

する技術資料の提供や、訓練などを実施していま

す。これらの経験から、ADRC 滞在中においては、国家および地方レベルの開発計画に関する研究を行いたいと思います。

それではイランの地理について紹介します。イランの南部にはペルシア湾およびオマーン湾が、北部にはカスピ海が面しています。面積はおよそ 1,648,000 平方キロメートル、世界では 18 番目に大きな国です。人口は 2013 年時点でおおよそ 7,700 万人です。周辺の国は、東側にはアフガニスタン、トルクメニスタン、パキスタン、西側はアルメニア、アゼルバイジャン、トルコ、イラクが面しています。このように、イランは多くの国々の国境が接している国です。

気候的には乾燥地帯（砂漠気候あるいはステップ気候）に属しています。地形的には多くの地

域が山岳で、国の中心部は砂漠に覆われています。またイランはアルプス・ヒマラヤ造山帯に属し、世界でも屈指の地震発生地域になっています。このような地理的に理由によりイランでは地震が頻発し、また洪水、干ばつ、火事など他の災害が発生する国となっています。首都テヘランは国内で最も大きな街で、過去の大規模な地震により、大きな経済・社会損失の経験をしています。これにより、イランにおいては、地震対策は最も優先順位の高い対策事項となっています。

滞在期間中、他の研究員とともに、様々な研究機関および政府関連機関を訪問する予定です。阪神・淡路大震災、東日本大震災、他の大規模な震災の経験から、日本政府は地震災害に関連する計画を重ねて改定してきました。阪神・淡路大震災後、復興に関連する 11 の大きな再開発事業が着手中され、10 年の間に完了したとの話を聞きました。このような迅速な対応は、世界的にも大変驚くべき対応だと思います。

最後に、今回の機会を頂いた日本およびイランの両政府に対しまして、改めて感謝を申し上げます。